

# “バス通過のつぶやき～Twitter を活用した運行情報の配信”

利用者及び運転手がバス停通過情報を Twitter で“つぶやき”、利用者はその情報を確認することで、バスの待ち時間の調整やバス通過の不安感の解消につながる。

## 1. 背景・目的

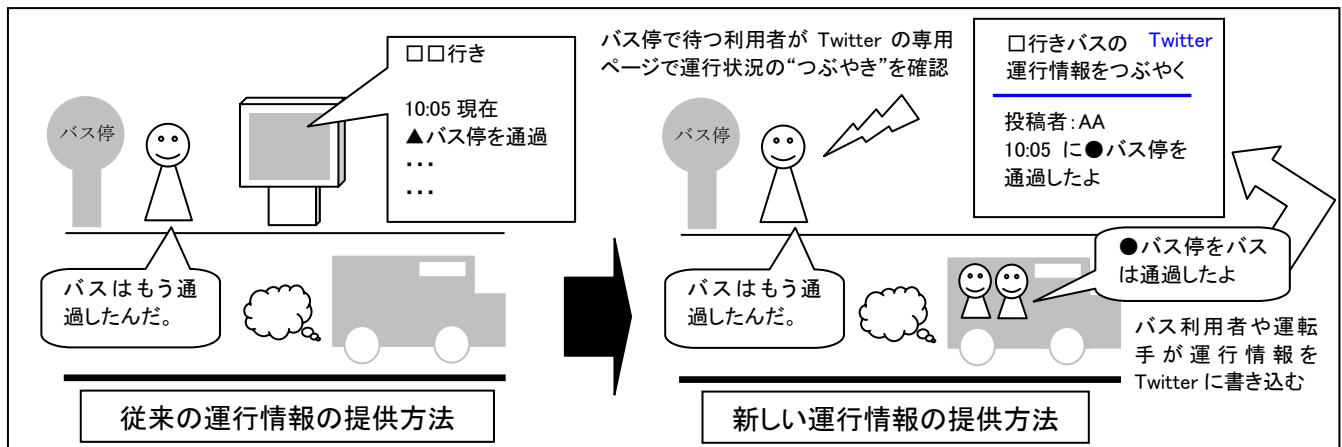
現在、地球規模での気候変動が顕著であり、我が国では温室効果ガス排出量を 2020 年までに 1990 年比で 25%削減する取り組み(C25)が盛んに行われ、今後の“環境対策”に注目が集まっている。そこで、本稿では、温室効果ガスがマイカーの約 3 割である公共交通（バス）に視点を当て、公共交通利用と環境対策をキーワードとした提案を行う。

## 2. 現在のバス運行状況の提供に関する課題

現在、バスロケーションシステムにより、リアルタイムなバス運行情報が提供されているが、その投資費用が高額であることから利用者が多い都市部のバス停のみのサービスとなっている。しかし、都心部では運行状況を確認せずとも提供サービスが豊富であり、バスが次から次へとやってくる。一方、郊外部のバス停では運行情報を確かめることが困難であるため、リアルタイムな運行情報の提供により、“いつくるの”、“もう通過してしまったの”といった利用者の不安感を解消させることが必要ではないだろうか。

## 3. 新しいバス運行情報の提供システムの提案

本稿では、導入費用が安価でどの地域でも導入可能な提供システムとして、Twitter を活用したシステムを提案する。ここで、Twitter とは、平成 21 年 9 月段階で利用者が約 320 万人に達したネットサービスであり、140 文字以内で誰でも無料で好きな内容を“つぶやける”ことや誰でも投稿内容を自由に閲覧でき、コメントできることが特長である。この特長を活かし、以下のようなシステムを提案する。



これにより、バスを待つ利用者の“不安感”を解消することで、公共交通機関へのマイカーからの転換と温室効果ガスの削減を狙う。また、設置費用が高額であるため、都市部に限定した提供が行われてきたバスロケーションシステムに代わる新しいシステムとしての利用が考えられる。また、高齢化社会を迎える中、地域の足としてのバス交通を維持する上で“利用者が主体”となった取り組み姿勢は重要である。

## 4. 実現に向けた今後の課題

本提案の実現に向けた課題としては、バス運行情報の“つぶやき”システムの維持（投稿者へのインセンティブ付与等）が挙げられる。

公共交通サービスは提供されるものとしての認識が強い。利便性の向上に向けた事業者の“自助”に加え、地域の足としてのバス交通を維持する上で、利用者による“共助”の考え方も必要ではないだろうか。